

新電力30社の節約額表示に関する実態調査

～公式サイト上の節約額と実際の請求額、最大約630%の乖離が判明～

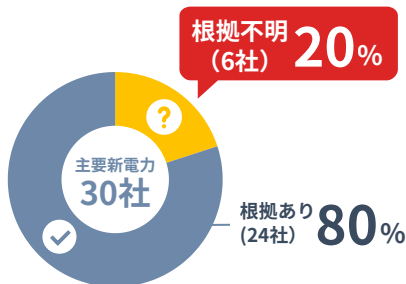
■ 調査概要

- 調査期間：2025年12月
- 調査対象：主要な新電力会社30社
- 調査方法：各社公式サイト上の料金シミュレーション算出条件の確認、
燃料費調整額を含めた実際の請求額との比較検証
- 調査主体：株式会社クラシエルジュ

主要調査結果

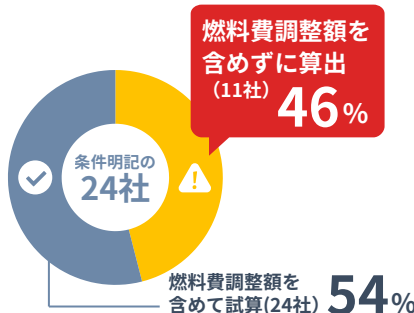
調査結果①

主要新電力のうち
5社に1社が算出条件を非公開



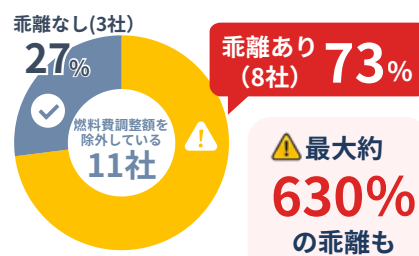
調査結果②

根拠を明記している24社中
46%が燃料費調整額を除外



調査結果③

燃料費調整額を除外している
新電力73%で公式サイト上の
節約額と実態に乖離



最大約
630%
の乖離も

なぜ乖離が生まれるのか？

- 燃料費調整額が高い電力会社が、その項目を除外して実際より安く見せている
- 旧一般電気事業者には燃料費調整額の上限がある一方、新電力には上限なしが多い
- 自社のみに割引適用など、不公平な条件で比較
- 詳細シミュレーターは公平でも、トップページには有利な条件の数字だけを表示

クラシエルジュが徹底する3つの透明性

- ① 燃料費調整額を含めた試算を実施 → 実際の請求額に近い金額で比較が可能
- ② 比較条件を統一して公平に算出 → 特定の会社には有利な条件は適用しない
- ③ 算出条件をすべて開示 → 燃料費調整額の対象月、比較対象プラン等を明記